

大阪 高槻ラウンド報告書



令和5年9月2日（土）ハイブリッド方式による「高槻ラウンド」を開催しました。今回は、久々に高槻市役所をお借りして開催することができ、会場に集まった19名とZOOM参加の8名、合計27名の方に参加いただくことができました。会場が変わるとWi-Fi接続がうまくいかず、毎年ご迷惑をおかけしていますが、なんとか始めることができホッとしました。

1. 小学校・中学校・高等学校の12年間を見通した授業づくり

高橋先生からは、小・中・高の12年間の系統性について学習指導要領をもとにお話しいただきました。なぜ4年間ごとのまとまりで指導内容が体系化されているのかなど、詳しい説明がありました。

また、各校種での球技（ネット型：バレーボール）の授業を映像で見せていただき、小・中・高の系統性のある指導が、いかに大切であるかを実感することができました。



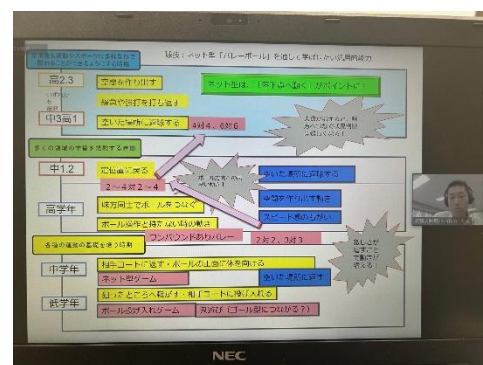
2. ワークショップ「小学校・中学校・高等学校の接続を意識した授業づくりについて」

各グループに分かれて、コンテンツ・マップづくりを行いました。このワークショップは、体系化を通して領域で目指す資質・能力の育成を検討することができます。コンテンツ・マップづくりから何に気付くことができたのか、参加者のみなさんからの意見をまとめてみました。

「小・中・高の全体像を見ると、今、何をすればいいのかがよく分かった。小学校低学年から楽しさを実感させることが大切だと感じた。高校の解説を見る機会がなかったのでよかった。」

「小学校から中学校へのつながりはこれまでも意識して取り組んできたが、低学年・中学年・高学年のつながりをもっと意識する必要があると思った。」

「小・中・高の系統性が大切であることを実感できた。中学校から高校へのつながりがうまくできていない現状があると思う。」



3. まとめ

最後に、高橋先生にまとめをしていただきました。今回のワークショップで、系統性をもっと意識しなきゃいけないということなど、先生方が感じたことが大切。高いレベルのものを目指すのではなく、子どもたちが楽しく授業に取り組むためにはどうしたらいいかをこれからも考えていってほしい、とまとめていただきました。

ひとつの領域を12年間のつながりをもって見てみるなかで、自分自身の校種の指導をどのようにすればいいかを考えるよい機会となったのではないのでしょうか。また、来年度のラウンドもよろしく願います。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

（文責：岩佐知美）

